

2026 年 7 月 17 日
沖縄電力株式会社

エネルギー記者会における社長会見について

電気事業連合会加盟各社は、エネルギー記者会において、毎月（8 月を除く）輪番で社長による定例記者会見を行っております。

本日、当社社長 横田哲が会見を行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 会 見 日： 2026 年 7 月 17 日（金）
2. 場 所： 経団連ビル 電事連 1801・1802 会議室
（東京都千代田区大手町）
3. 出 席 者： エネルギー記者会加盟各社
4. 配付資料： 添付参照

以 上



地域とともに、地域のために

沖縄電力

おきでんグループ経営ビジョン（概要版）

沖縄のミンサー柄「いつ（五）のよ（四）までも末永く幸せに」という意味合いの沖縄の伝統模様をモチーフとしています

目 次（概要版）

はじめに・グループ経営理念	P1
2050年 沖縄地域の将来イメージ（発展可能性）	P3
電力需要イメージ	P4
おきでんグループのありたい姿	P5
カーボンニュートラル実現に向けて	P6
ビジョン実現に向けた2030年までの経営テーマ	P8
株主還元方針	P9

当社グループを取り巻く事業環境は、今、大きな転換点にあります。エネルギーの安定供給に対する社会的要請が一層高まる一方で、脱炭素化への対応、設備の高経年化、資機材価格や金利の上昇、本格的な競争環境への備えなど、私たちが向き合うべき課題はかつてなく多様かつ複雑になっています。こうした環境変化の中にあっても、当社グループの使命は明確です。沖縄の暮らしと産業を支えるエネルギー基盤を守り抜き、そのうえで、地域の将来を見据えた新たな価値を着実に創出していくことにあります。

本グループ経営ビジョンでは、2030年までを「未来基盤創造フェーズ」と位置づけました。この期間は、将来の成長を支えるための土台を築く極めて重要な時間であると考えています。安全・安定供給を揺るぎなく守るとともに、沖縄の実情を踏まえた現実的なカーボンニュートラルへの移行を進め、サプライチェーン毎の強靱化と収益力の向上、AXによる業務オペレーション改革、そして沖縄の成長と連動した事業領域の拡大に取り組んでまいります。

安定供給を信頼の原点として最優先に守り、安心して電気をお使いいただける環境を支え続けます。そのうえで、確立した事業基盤と成長力を足がかりに、「価値創出フェーズ」への移行を加速し、低炭素化と経済性を両立しながら、多様化するニーズに応える商品・サービスの充実を図ります。さらに、沖縄の発展可能性を見据え、地域の成長戦略と歩調を合わせ、エネルギーを核に地域課題の解決と新たな価値創造に貢献します。沖縄の未来は、沖縄に根ざす私たち自身が支えていく——その強い責任感をもって、地域とともに歩みを進めてまいります。

安定供給、脱炭素化、地域活性化のいずれも、当社グループだけで成し遂げられるものではありません。地域の皆さま、パートナーの皆さまとの信頼の輪を広げながら、沖縄の未来にふさわしい事業基盤を築いてまいります。当社グループはこれからも、「地域とともに、地域のために」という思いを原点に、沖縄の発展を支える企業グループとしての責任を果たしてまいります。足元を固め、変化に正面から向き合い、地域の未来につながる成長を実現する。その決意のもと、本グループ経営ビジョンを着実に 遂行し、沖縄の持続的な発展に貢献してまいります。

2026年4月30日
代表取締役社長
社長執行役員

横 田 哲

グループスローガン 地域とともに、地域のために

Mission

私たちの存在意義

目指すべき姿

総合エネルギー事業をコアとして、ビジネス・生活サポートを通して新しい価値の創造を目指し、地域に生き、共に発展する一体感のある企業グループとして、持続可能な社会の実現に貢献します。

Vision

私たちのありたい姿

2050年 ありたい姿

EMPOWER & COLLABORATE

沖縄に活力を与え、ステークホルダーと未来を共創する

Values

私たち一人ひとりが大切にしている価値観

大切にしている価値観

情熱

×

共創

×

挑戦

当社グループの基本的使命であるエネルギーの安定供給に対し、あふれる情熱で真摯に取り組めます。

地域密着のグループとして多様なステークホルダーと共創し、地域とともに成長することで企業価値の向上を目指します。

当社グループを取り巻く経営課題に対し、自ら限界を設けることなく果敢に挑戦し、持続的成長を目指します。

重点戦略・アクションプラン
(財務・非財務目標)

中期経営計画

経営の基本的方向性

1. エネルギーの安定供給に尽くす
2. カーボンニュートラルに積極果敢に挑戦する
3. お客様の多様なニーズに対応し、満足度の向上に尽くす
4. 地域社会の良き企業市民として社会的責任を果たす
5. 人を育み、人を大切にする
6. 積極的な事業展開と不断の経営効率化を通じて持続的成長を図る

2050年 沖縄地域の将来イメージ（発展可能性）

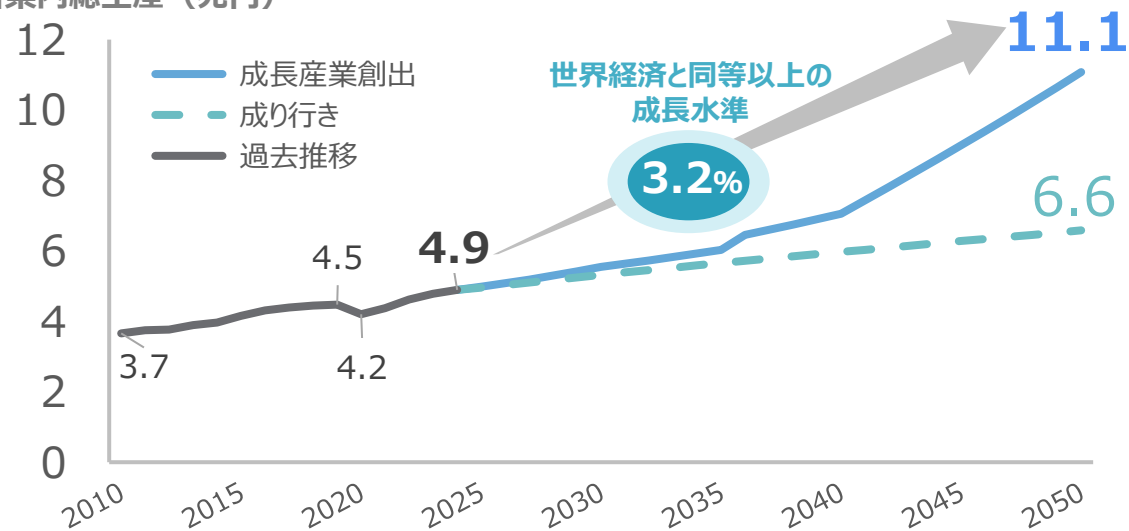
3

沖縄では、GW2050 PROJECTSに象徴されるように成長を生み出す多様な事業機会が広がりつつあります。

おきでんグループでは、お客さまや地域の皆さまに支えられながら長年にわたり培ってきた技術・経験を基に、沖縄地域のエネルギーで発展を支え、県経済の牽引役としても地域・社会の活性化と持続的な成長に貢献していきます。

GW2050 PROJECTS

名目県内総生産（兆円）



	2024年	2050年
名目県内総生産	4.9兆円	11兆円
就業人数	77万人	93万人
総人口	147万人	167万人
一人当たりの県民所得	254万円	552万円

将来イメージ

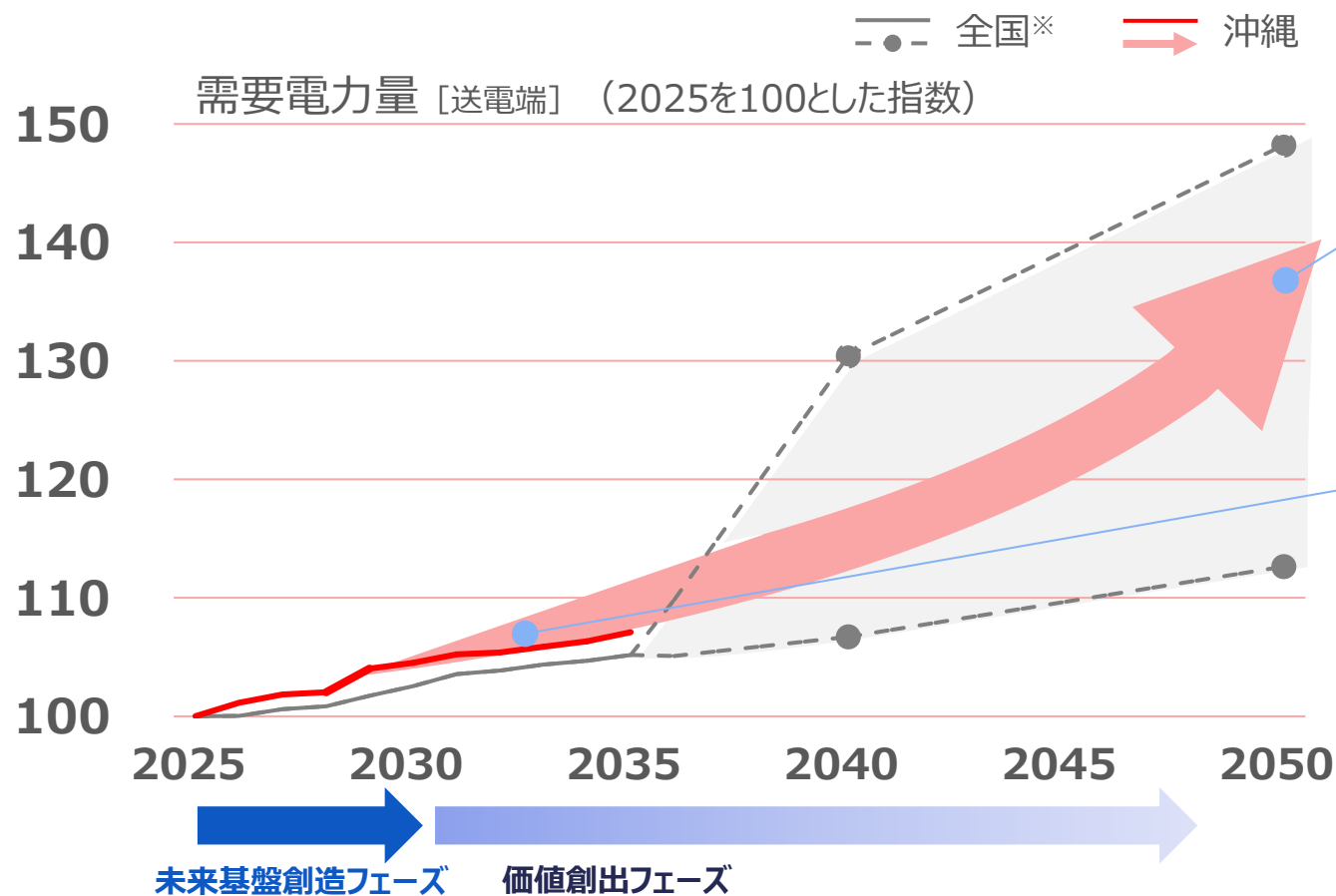


2050年 電力需要イメージ

4

2050年を見据えると、沖縄の発展ポテンシャルを背景として、電力需要は中長期的に増加基調が強まり大幅な伸びとなる可能性があります。

電力需要の増加見通しイメージ



2050年に向けては、GW2050PROJECTSの構想を踏まえた沖縄の発展可能性に鑑みるとデータセンターや半導体関連需要が進展した場合の全国の電力需要の伸びと同程度のペースで増加していく可能性があります。

2035年に向けての沖縄地域における電力需要の増加は全国平均並みの増加となる見通しですが、今後、沖縄においてもデジタル関連分野の進展を背景に、電力需要が拡大する可能性があります。

おきでんグループは、今後増加が見込まれる電力需要に対し、安定供給を確実に維持するとともに、事業機会を確実に捉え、収益力の向上につなげていきます。

2050年 おきでんグループのありたい姿

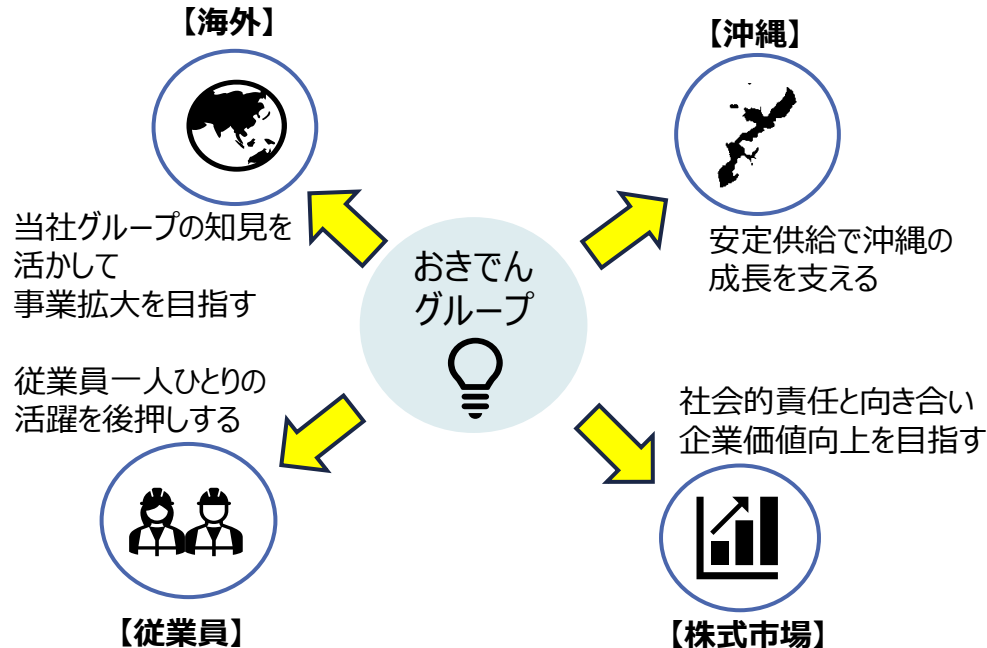
5

2050年に向けた当社グループのありたい姿として、「**EMPOWER & COLLABORATE**：沖縄に活力を与え、ステークホルダーと未来を共創する」と決めました。

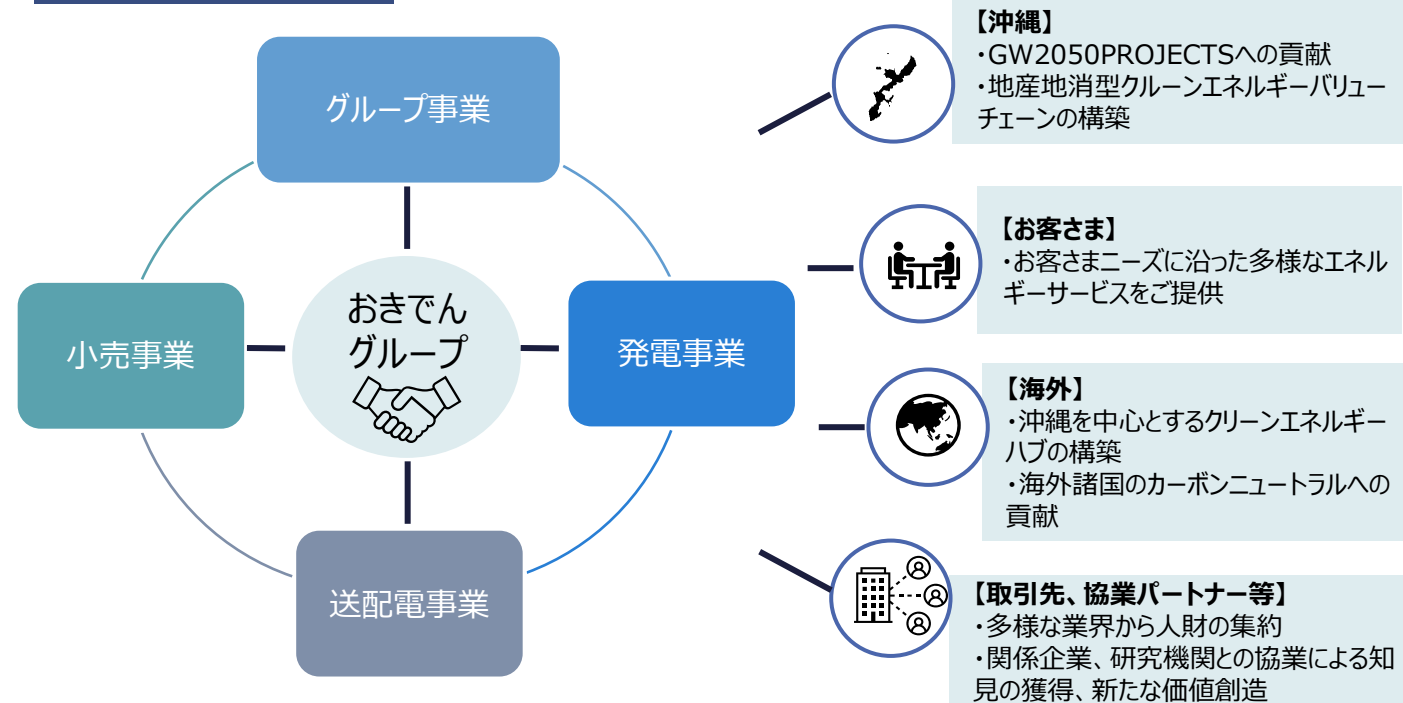
「**EMPOWER**」について、「安定供給で沖縄の成長を支える」という当社グループの存在意義の再確認に加え、「従業員一人ひとりの活躍を後押しする」、「当社グループの知見を活かして海外事業を拡大する」、「社会的責任と向き合い企業価値向上を目指す」といった想いを重ねております。

「**COLLABORATE**」について、沖縄（地域社会）、お客さま、取引先や協業パートナーの皆さま、海外の国々等とのつながりを再構築し、ともに未来を共創していく関係性へパラダイムシフトを目指します。

EMPOWER



COLLABORATE



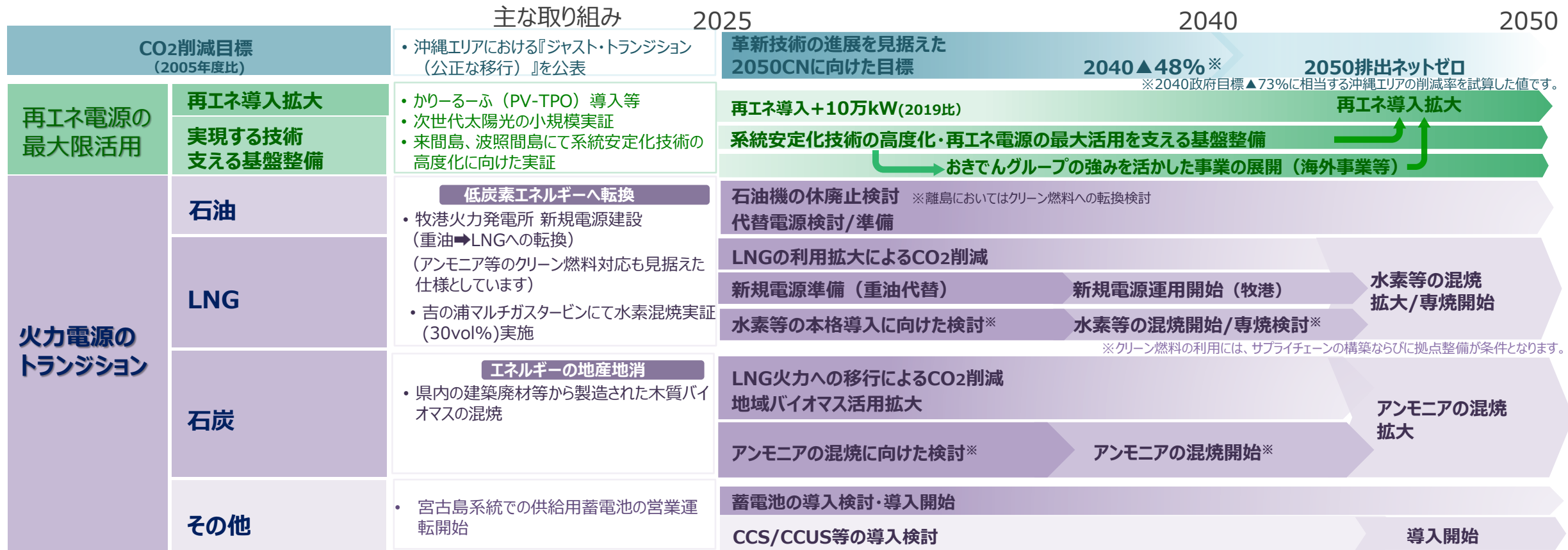
2050年 カーボンニュートラル実現に向けて（トランジション計画）



6

沖縄エリアの特殊性を踏まえつつ、これからも政府の目標に協調し、電力の安定供給を大前提としたカーボンニュートラル（以下、CN）の実現に向けて取り組みます。

2050CNに向けたトランジション計画



- ・ 必要な技術確立と経済性が両立していることが条件となります。
- ・ 条件の成立に向けても鋭意取り組んでまいります。
- ・ これらの次世代技術の開発ならびに導入には政策的・財政的支援が必要となります。
- ・ 具体的な施策や目標については、国のエネルギー政策や技術動向の見通し、燃料価格等の外部環境の変化を踏まえて、適宜見直してまいります。

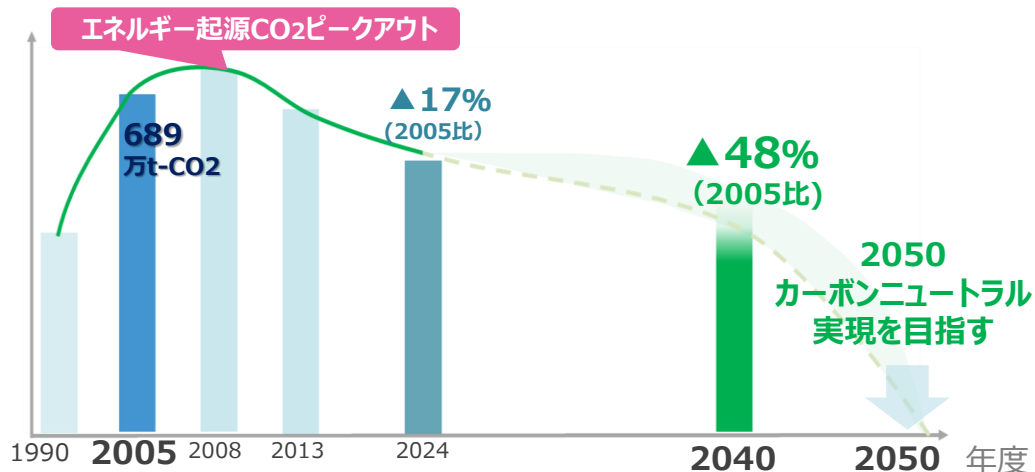
2050年 カーボンニュートラル実現に向けて（取り組み）

2050CNに向けた取り組み・方向性

火力

- 経年電源の代替開発を進めつつ、休廃止の検討を進める
- トランジションとしてのLNG利用拡大でCO2を削減を進める
- 石炭機の地域バイオマス活用
- 県内にサプライチェーン/拠点整備およびクリーン燃料（水素・アンモニア等）の混焼/専焼の導入を検討する
- クリーン燃料の調達方法やCCS/CCUS、蓄電池、次世代 エネルギー等の導入検討を進める

● CO2排出削減 経路イメージ

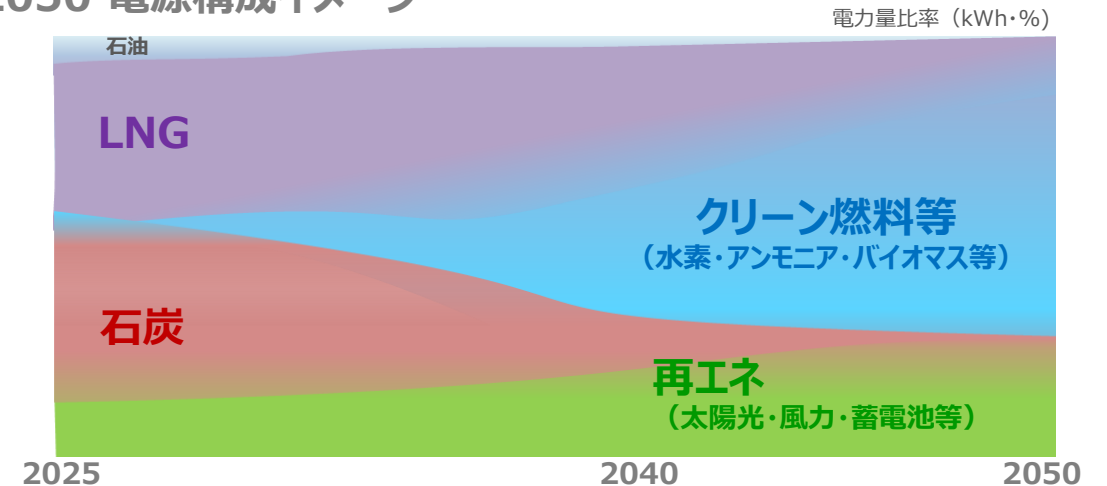


- ・必要な技術確立と経済性が両立していることが条件となります。
- ・具体的な施策や目標については、国のエネルギー政策や技術動向の見通し、燃料価格等の外部環境の変化を踏まえて、適宜見直してまいります。

再エネ

- かりーるーふや水上太陽光などのPPA事業等により、再エネ導入の拡大を図る
- ペロブスカイト太陽電池等、次世代技術の普及を視野に沖縄エリアの再エネ電源を最大限活用するための系統安定化技術の高度化および支える基盤整備を推進
- おきでんグループで培ったノウハウ・技術を強みとした事業展開（海外事業等）

● 2050 電源構成イメージ



- ・クリーン燃料の利用には、サプライチェーンの構築ならびに拠点整備が条件となります。
- ・これらの次世代技術の開発ならびに導入には政策的・財政的支援が必要となります。

沖縄の発展可能性を具現化した2050年の社会像の実現に向けて、2030年までを「**未来基盤創造フェーズ**」と位置づけ、「**サプライチェーン毎の安定供給と収益力強化**」、「**AXによる業務オペレーション改革**」、「**沖縄エリアのジャスト・トランジションの推進**」、「**沖縄の成長と連動した事業領域の展開**」を経営テーマとして取り組んでいきます。

「**未来基盤創造フェーズ**」においては、沖縄地域の持続的な発展を支える強靱なエネルギー基盤の確立を最優先課題とし、サプライチェーン毎の安定性と効率性の向上を通じて、将来の成長を支えるグループ共通の事業基盤を構築していきます。あわせて、今後沖縄においても拡大が見込まれるデジタル関連分野の需要を的確に取り込み、AXによる業務オペレーション改革や成長分野への事業展開を進めることで、持続的な収益力の向上に取り組んでいきます。

「**価値創出フェーズ**」では、「未来基盤創造フェーズ」において構築した事業基盤と成長力を確かな足がかりとして、新たな価値の創出を加速させていきます。沖縄の成長と連動した事業ポートフォリオの高度化や付加価値型事業の拡大を通じて、収益構造の質的転換を図り、グループ全体の成長性と収益力を持続的かつ飛躍的に高めていきます。

未来基盤創造フェーズにおける取り組み

1. サプライチェーン毎の安定供給×収益力の強化
2. AXによる業務オペレーション改革
3. 低炭素化に向けた沖縄エリアのジャスト・トランジションの推進
4. 沖縄の成長と連動した事業領域の展開

持続的な成長

グループ全体の成長性と収益力を
持続的かつ飛躍的に高める

未来基盤創造フェーズ

価値創出フェーズ

2023-2025年度の3年間を、財務基盤の回復に注力するリカバリー期間とし連結自己資本比率25%を目指すとともに、同期間においては、段階的に配当水準を引き上げ、同期間終了後に、従来配当水準に戻すことを目指してまいりました。

リカバリー期間最終年度の2025年度業績において、連結経常利益は80億円に達し、連結自己資本比率も25%を達成しております。2026年度からは、利益配分に関する基本方針に基づいた配当を予定しております。

利益配分に関する基本方針

- 当社の利益配分にあたっては、
「安定的に継続した配当」を基本とし、「連結純資産配当率 (DOE)2.0%以上」を維持していきます。

「未来基盤創造フェーズ」においては、将来の成長に向けた基盤構築の進捗や財務状況、成長投資とのバランスを総合的に勘案しながら、安定的かつ持続可能な株主還元を行っていきます。

また、「価値創出フェーズ」への進展を見据え、基盤構築の成果を新たな価値創出につなげることで、企業価値の向上を通じた株主価値の最大化に取り組んでいきます。